

## 施設等利用給付認定申請の案内

### ○幼児教育・保育の無償化

島根大学教育学部附属幼稚園(以下「附属幼稚園」という。)の保育料及び入園料について、施設等利用給付 1号認定を受けることにより、無償化(施設等利用費の支給)されます。

また、附属幼稚園に在籍する子どもで、その保護者(父・母)に係る「保育を必要とする事由」がある場合は、施設等利用給付 2号認定を受けることにより、附属幼稚園の保育料及び入園料のほか、認可外保育施設、一時預かり事業、病児保育事業及び子育て援助活動事業の利用が「特定子ども・子育て支援」として月額11,300円まで無償化(施設等利用費の支給)されます。

各世帯の状況により施設等利用給付 1号認定申請をするか、施設等利用給付 2号認定申請をするかを選択し、**入園する月の前月までに施設等利用給付認定申請を必ず行ってください。**

※施設等利用給付認定を受けた日以降の附属幼稚園の利用などが特定子ども・子育て支援として無償化されます。申請日以前に遡及して附属幼稚園の利用などを無償化することはできません。

施設等利用給付 1号認定:満3歳以上の就学前子どもであって、家庭において必要な保育を受けることが困難でないもの。

施設等利用給付 2号認定:満3歳に達する日以後最初の3月31日までを経過した就学前子どもであって、家庭において必要な保育を受けることが困難であるもの。

※施設等利用給付 1号認定を受けた後に施設等利用給付 2号認定に変更したり、施設等利用給付 2号認定を受けた後に施設等利用給付 1号認定に変更したりすることは可能です。

### ○施設等利用給付認定申請の方法

施設等利用給付 1号認定申請する場合は「子育てのための施設等利用給付認定・変更申請書」を、施設等利用給付 2号認定申請する場合は「子育てのための施設等利用給付認定・変更申請書」及び「保育の必要性を証明する書類」を、附属幼稚園が指定する期日までに附属幼稚園へ提出してください。

子どもが附属幼稚園に入園する前に施設等利用給付 2号認定申請をする場合で、**「保育を必要とする事由」が「求職活動」のときは、入園する月の前月における求職活動の実績をもって申請してください。**

※保育所幼稚園課で申請書を受け付けた日が申請日となります。

※「保育の必要性を証明する書類」は、「子育てのための施設等利用給付認定・変更申請書」の裏面で御確認ください。

※「子育てのための施設等利用給付認定・変更申請書」及び「保育の必要性を証明する書類」のうち所定用紙があるものは、市ホームページ及び保育所幼稚園課で取得できるほか、附属幼稚園でも取得できます。

### ○施設等利用費の支給方法

#### (1) 附属幼稚園の保育料及び入園料

現物給付(島根大学による施設等利用費の法定代理受領)となります。保育料及び入園料は徴収されません。ただし、途中退園した場合は、無償化とならない入園料の一部が徴収されます。

#### (2) 認可外保育施設などの利用料

認可外保育施設、一時預かり事業、病児保育事業及び子育て援助活動支援事業の利用料はお支払いいただきます。

その後、施設等利用給付 2号認定の有効期間に利用した認可外保育施設、一時預かり事業、病児保育事業及び子育て援助活動支援事業を「特定子ども・子育て支援」として、「施設等利用費」を3か月ごとに支給(償還払)します。

| 主な保育を必要とする事由                    |  | 施設等利用給付認定の有効期間  |
|---------------------------------|--|---|
| 就 労                             | 1 月当たり 48 時間以上労働することを常態としている。<br>※産前産後休暇又は育児休業を取得している期間は、保育を必要とする事由は「就労」にはなりません。   | 認定起算日から最長で施設等利用給付認定子どもが小学校就学の始期に達するまでの期間<br>※有期雇用の場合は雇用満了日が属する月の末日までの期間となります。                         |
| 妊 娠<br>・<br>出 産                 | 妊娠中であるか又は出産後間がない。  | 出産予定日前 8 週（多胎児は 14 週）の初日が属する月の認定起算日から、出産日（出産予定日で認定した場合は出産予定日）から起算して 8 週を経過する翌日が属する月の末日までの期間           |
| 疾 病<br>・<br>障 がい                | 疾病にかかり、若しくは負傷し、又は精神若しくは身体に障がい有しており、保育困難である。  | 認定起算日から最長で施設等利用給付認定子どもが小学校就学の始期に達するまでの期間  |
| 常 時<br>介 護                      | 同居の親族を常時介護している。<br>※被介護者が介護保険制度の要介護状態区分において要介護 2 以上又は重度障がい有する場合のみ対象となります。  | 同上  |
| 常 時<br>看 護                      | 同居の親族を常時看護している。<br>※被看護者が乳児（0 歳）の場合は、家庭において必要な医療的ケアが常時必要でなければ保育の必要性は認められません。   | 同上  |
| 求 職<br>活 動                      | 求職活動を継続的に行っている。<br>※教育・保育給付認定又は施設等利用給付認定のいずれかで年度内に 1 回のみ認定します。ただし、求職活動による認定後、就労で変更認定を受けてから離職した場合に限り、同一年度内に 1 回のみ再度認定します。<br>※求職活動で認定を受けた翌年度に求職活動で再度認定を受ける場合は、以前の有効期間から 1 か月以上の期間を空ける必要があります。 | 認定起算日から、同日から起算して 75 日を経過する日が属する月の末日までの期間<br>※求職活動の回数は世帯で勘定し、兄弟姉妹が既に求職活動で認定を受けている場合は、当該認定の有効期限までとなります。 |
| 就 学                             | 学校教育法に規定する学校、専修学校、各種学校その他これらに準ずる教育施設に在学している。   | 認定起算日から最長で保護者の卒業予定日が属する月の末日までの期間  |
| 職 業<br>訓 練                      | 公共職業能力開発施設などにおいて行う職業訓練を受けている。  | 認定起算日から最長で保護者の修了予定日が属する月の末日までの期間  |
| 育 児<br>休 業<br>中 の<br>継 続<br>利 用 | 育児休業を取得する前から就労により継続して預かり保育又は認可外保育施設を利用（認可保育所と同程度の継続的な役務の提供であること）し、 <u>出産後も継続して利用している。</u><br>※一時預かり保育、一時預かり事業、病児保育事業及び子育て援助支援事業は適用されません。   | 認定起算日から保護者の育児休業が満了する日の属する月の末日までの期間又は当該育児休業に係る子どもが満 2 歳に達する日の属する月の末日までの期間のいずれか短い期間                     |

※施設等利用給付認定の有効期間は施設等利用給付 2 号認定の場合を記載しています。